2021年度　大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程

入 学 試 験 問 題

専門科目（90分）

注意事項

1. 問題用紙は、監督者が「解答始め」の指示をするまでは開かないこと。
   脱落のあった場合には申し出ること。

2. 解答用紙には、受験番号、氏名、および問題番号を記入すること。

3. 問題は①から⑧まで計8問あるが、それら8問のうちから1問のみを
   選んで解答すること。2問以上に解答した場合は得点を与えない。

4. 問題文は日本語で記されているが、外国人留学生特別選抜での出願者のみ
   英語で解答することが可能である。

5. 机上には、写真が見えるように「受験票」を出しておくこと。

6. 試験終了後は解答用紙のみ提出し、問題用紙は持ち帰ること。

①　経済理論１

カール・マルクス著『資本論』第一巻の「本源的蓄積」に関する議論を踏まえて、以下の問いすべてに答えなさい。

1-1　資本主義の始まりについて説明しなさい。

1-2　現代の資本主義は、途上国の児童労働や先進国での低賃金労働やさらに低賃金の移民労働を包摂し、成り立っている。この点について、事例を挙げながら説明しなさい。

②　経済理論２

カール・マルクス著『資本論』第一巻の「相対的剰余価値の生産」をめぐる議論について、以下の問いに答えなさい。

2-1　資本は、絶対的剰余価値の生産と相対的剰余価値の生産をともに追求します。絶対的剰余価値と相対的剰余価値について、それぞれ説明しなさい。

2-2　絶対的剰余価値の生産には限界があります。なぜでしょうか。事例を挙げて説明しなさい。

2-3　絶対的剰余価値の生産には限界があるために、資本は相対的剰余価値の生産を展開し、「特別剰余価値」の獲得を目指します。しかし、いったん得られた特別剰余価値は、やがて消滅していきます。特別剰余価値について説明したうえで、それが消滅していく過程について、事例を挙げながら説明しなさい。

③　経済理論３

以下の [3-1]と[3-2]の全ての問いに答えなさい。

[3-1] ある財の市場の需要曲線と供給曲線がそれぞれ、

$$D = -2 \cdot P + 30$$

$$S = 2 \cdot P - 14$$

[D：需要量、 S：供給量、 P：価格]

で示されるとする。

(a) 均衡における価格と数量はいくらか。

(b) 政府がこの財に 20%の従価税を賦課したとする。均衡における価格（税込み価格）と数量はいくらか。

(c) 上記の(b)で賦課した従価税によって発生する経済厚生の損失はいくらか。

[3-2] 独占企業の直面する市場需要曲線が、

$$X = 10 - P$$ [X：数量、P：価格]

で示されるとする。独占均衡において、ラーナーの独占度（L）が L=0.25 であるとき、この企業が供給する数量はいくらか。

④　経済理論４

<u>以下の[4-1]と[4-2]と[4-3]の全ての問いに答えなさい。</u>

[4-1] マクロの経済体系および労働供給量の関数が以下のように与えられている。今、実質賃金が w＝3 で硬直している場合、失業率はいくらか。

$$Y = 8 \cdot L^{0.75}$$

$$L_S = 8 \cdot w$$

[Y：国民所得、L：労働投入量、L_S ：労働供給量、w：実質賃金]

[4-2] マクロ的生産関数が以下のように与えられている。名目賃金が８のときの総供給関数を答えなさい。

$$Y = 3 \cdot L^{0.5}$$

[Y：国民所得、L：労働投入量]

[4-3] 変動相場制の開放マクロ経済が以下のように示されている。

$$Y = D + B$$
$$D = 200 + 0.7 \cdot Y - 1000 \cdot r$$
$$B = -100 + 2 \cdot e - 0.2 \cdot Y$$
$$M = 0.8 \cdot Y - 500 \cdot r$$

[Y：国民所得、D：国内需要、B：純輸出、r：国内利子率、e：為替レート M：貨幣供給量]

国家間の資本移動は完全であり、この国は小国であるとする。貨幣供給量 M が 10 増加した場合、国民所得 Y と為替レート e はいくら変化するか。

⑤　計量経済学

すべての問題に答えよ。なお、答えに至る途中経過も示せ。

[1]　回帰式$\mathrm{y_i} = \alpha + \beta x_i + \gamma z_i + \epsilon_i\ (i = 1,2,\cdots,n)$を考える。ここで、$\epsilon_i$は期待値 0 の誤差項とする。また、$\sum_{i=1}^{n} z_i = \sum_{i=1}^{n} x_i z_i = 0$とする。

（あ）　上記の回帰式の γ の最小二乗推定量$\hat{\gamma}$を求めよ。

（い）　回帰式$\mathrm{y_i} = \alpha' + \beta' x_i + \epsilon'_i$（$\epsilon'_i$は期待値 0 の誤差項）の最小二乗残差を$\mathrm{e_i}$、回帰式$\mathrm{y_i} = \alpha + \beta x_i + \gamma z_i + \epsilon_i$の最小二乗残差を$\mathrm{e_i^*}$、$\gamma$の最小二乗推定量を$\hat{\gamma}$としたとき、

$$\sum_{i=1}^{n} e_i^2 = \sum_{i=1}^{n} (e_i^*)^2 + \hat{\gamma}^2 \sum_{i=1}^{n} z_i^2$$

が成立することを示せ。

（う）　回帰式$\mathrm{y_i} = \alpha' + \beta' x_i + \epsilon'_i$を最小二乗推定した場合の自由度修正済み決定係数を、回帰式$\mathrm{y_i} = \alpha + \beta x_i + \gamma z_i + \epsilon_i$を最小二乗推定した場合の自由度修正済み決定係数が上回る条件を式で示せ。

（え）　（う）で得た式が表す意味を「 t 値」という言葉を使って答えよ。

[2]　$\mathrm{y_t} = \alpha + \phi y_{t-1} + \epsilon_t\ (\mathrm{t} = 1,2,\cdots,\mathrm{T})$ を考える。ここで、ϵ_iは期待値 0、分散σ^2の独立同分布な誤差項とする。ただし、$|\phi| < 1$。

（あ）　$\mathrm{y_t}$の期待値を求めよ。

（い）　$\mathrm{y_t}$の分散($\mathrm{Var[y_t]}$)を求めよ。

（う）　１次の自己共分散$\mathrm{E[(y_t} - E[\,y_t])(\mathrm{y_{t-1}} - E[y_t])]$（$\gamma_1$と書く）を求めよ。

（え）　１次の自己共分散を分散$\mathrm{Var[y_t]}$でわったものを１次の自己相関係数とよんで、ρ_1と書くが、これを求めよ。

（お）　k 次の自己相関係数、

$$\rho_\mathrm{k} = \frac{\mathrm{E[(y_t} - E[y_t])(\mathrm{y_{t-k}} - E[y_t])]}{\mathrm{Var[y_t]}}$$

を求めよ。

⑥　経済史

国境を超える広範囲の「人の移動」は昔も今も、国や地域の経済発展に大きな影響を及ぼす重要な要素であり、経済史の分野においても広く注目されている課題になっている。

さて、以下に挙げた６つの側面から１つか２つに絞って、1945 年以前の事例に即して「人の移動」による経済発展へのプラス、あるいはマイナスの影響を論じてください。
地域か時代を限定したうえで、具体的な史実を取り上げて詳しく論述するのが望ましい。

① 商人ネットワーク
② 隔離と集住
③ 植民地の開発
④ 外国人労働者
⑤ 技術の移転と国産化
⑥ 伝染病と公衆衛生

⑦　経済政策

１）短期フィリップス曲線と長期フィリップス曲線について、それぞれ説明しなさい。
２）フィリップス曲線のフラット化とはどのような現象か、具体的事例を挙げて説明しなさい。
３）上記現象が起きていた場合、インフレ・ターゲティングにおいて有効な政策としてどのようなものが考えられるか、あなたの意見を述べなさい。

⑧　国際経済

以下の①～④の 4 問から２つを選択して解答しなさい。解答に際し、どの問題を選択したか最初に番号を明記すること。なお、解答には図表を用いてかまわない。

① 国際貿易理論における比較優位と要素価格均等化定理について説明しなさい（比較優位の説明には数値例を用いること）。
② マーシャル＝ラナー条件を用い、J カーブ効果について説明しなさい。
③ 具体的な事例を用い、オランダ病について説明しなさい。
④ 貧困の罠について、そのメカニズムだけでなく解決方法も含めて説明しなさい。